

平成27年度第9回遠野市総合計画審議会 — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 平成27年10月27日(火)午後2時00分～午後3時20分
- 2 場所 あえりあ遠野 交流ホール
- 3 出席者

(1) 委員

会長	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
委員	松田 克之	遠野市消防団団長
委員	千葉 和	NPO法人遠野エコネット代表
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会副委員長
委員	菊池 一勇	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長(代理出席、菊池修市)
副会長	荒田 良治	一般社団法人遠野市観光協会会長(代理出席、菊池完)
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	小松 正真	一般社団法人遠野青年会議所理事長
委員	菊池香南子	遠野市校長会副会長
委員	工藤 和信	遠野市PTA連合会副会長
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	菅沼 隆子	一般財団法人遠野市教育文化振興財団副理事長
委員	内館 充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	木村 稔	岩手県県南広域振興局経営企画部長
委員	鳥屋部恵児	公募
委員	菊池 広樹	公募
委員	高宏 美鈴	公募
委員	菊池 陵太	公募

(2) 遠野市

本田 敏秋	市長
菊池 孝二	副市長
藤澤 俊明	教育長
菊池 文正	経営企画部長
飛内 雅之	経営企画部まちづくり再生担当部長
菊池 永菜	経営企画部ICT・医師確保担当部長
荻野 優	総務部長
古川 憲	健康福祉部長
佐藤 浩一	産業振興部長
小向 浩人	農林畜産部農業振興課長
仁田 清巳	環境整備部長
小向 孝子	遠野文化研究センター一部長
小時田光行	消防本部消防長
鈴木 惣喜	市民センター所長兼宮守総合支所長
多田 博子	教育部長兼子育て総合支援センター所長
鈴木 英呂	企画総括課長
澤村 一行	財政担当課長
千田 孝喜	まちづくり再生担当課長

伊藤 貴行 ICT・医師各所担当主管

4 欠席者

委員	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会会長
委員	菊池 一晃	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	佐々木栄洋	公募

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 出席者報告及び日程説明
- 5 審議
第2次遠野市総合計画前期基本計画(案)について
(1) 前回の審議会までに出された意見への対応について(資料No. 1、2、3)
(2) 審議
- 6 答申
- 7 その他
- 8 閉会

(配付資料)

- 1 次第、名簿
- 2 第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応(資料No. 1)
- 3 第2次遠野市相互計画前期基本計画(案)(資料No. 2)
- 4 第2次遠野市相互計画前期基本計画掲載主要事業(案)(資料No. 3)

(議事概要)

1 開会

○菊池文正 経営企画部長

本日は大変お忙しい中、遠野市総合計画審議会にご出席いただきましてありがとうございます。ただ今から平成 27 年度第 9 回遠野市総合計画審議会を開会いたします。はじめに遠野市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○本田敏秋 遠野市長

皆さん大変ごろうさまです。皆さまには、それぞれの仕事を抱えながら、これからの遠野のあるべき姿について真剣な議論を交わしていただきました。心から感謝申し上げます。

9 月 29 日の審議会において諮問した第 2 次遠野市総合計画前期基本計画（案）について、これらで、基本構想の大綱における 5 つの分科会と全体会で検討していただきました。今日は 4 回目の審議となり、9 月 29 日、10 月 5 日、14 日、27 日と、大変なご尽力をいただきました。深く敬意を表します。

今日は、これまで分科会、全体会での審議結果を踏まえて、答申という運びにできればと思っています。これまで審議された内容については、市の考えを示していますので、それを踏まえて答申をいただければと思います。

12 月には定例市議会が予定されていますが、前期基本計画について提案し、議会の同意を得るという段取りを予定しています。平成 28 年度の当初予算を裏付けるために、この基本計画を実施計画に持っていくという作業が待っています。特に、前期 5 か年は 3 年でローリングを行う取り組みです。本市では、基本計画や実施計画に盛り込まれた事業が本当に進んでいるのかを市民目線で検証するまちづくり指標を設けて、毎年検証を行っています。この厳しい行財政の中で 7 割を超える達成状況は、自慢しても良いのではないかと思います。すべてが 100 点であれば、それにこしたことはありませんが、様々な状況の中で、計画に盛り込まれた事業以外にも対応しなければならないこともあり、弾力的な運営にもなってきます。

まち・ひと・しごと総合戦略について、本市では、市総合計画基本構想のコンセプトである『遠野スタイルの創造・発展』を使い、『遠野スタイル創造・発展総合戦略』としました。10 月 26 日に第 6 回遠野まち・ひと・しごと推進本部会議を開催し、『遠野スタイル創造・発展総合戦略』を決定しました。4 つの重点プロジェクトを中心に、雇用、定住、交流、子育てなどを最重点課題と位置付けました。そこにもう一つ、プロジェクト X として指標に示せない市民の方、一人一人の力として、官民一体のなかで市政発展につなげていくのかということと指標として位置付けました。幸せ度の向上をはかる指標として、市民がそれぞれの立場で地域づくり、まちづくりに参加していくという取り組みを行っていきたいと思っています。

昨日の遠野テレビで、上郷町暮坪で神社が見事によみがえったという様子が報道されていました。地域住民の方が、朽ち果てた社を見事によみがえらせている姿が地域づくりに参加していることになり、地域のコミュニティーのまとまりが強くなっていると思いました。

4 つの重点プロジェクトの他に、市民参加をそれぞれの立場で行いやすい環境づくりを行っていく取組として「地域資源を生かした雇用の創出」「観光から交流、そして定住へ」「子育て支援の推進」「健康寿命の延伸」、市民が主観的に幸せ度を感じられる指標を「プロジェクト X」として取り入れることにしました。

この中で 25 年後の 2040 年の人口を 20,200 人と設定しました。国立社会保障・人口問題研究所が発表した推計人口は 17,786 人でした。それぞれの数値を遠野市なりに分析して推計値よりも 2,400 人多い数値としました。出生率の上昇として 1.90 を 1.94 にできないか、この 1.90 でも県内ではかなり高い数値ですが、0.04 増やすということができないか。また、高齢者については、健康寿命を延ばしていくということで生まれる人を増やして、亡くなる方を減らす。人口減少問題にも果敢に挑戦するという道標を見出すことができました。

総合戦略を策定して、それでよしとはなりません。これまでの皆さんのエネルギーと遠野市を愛する熱い想いをもとに着実に推進することが我々の役割になります。

11 月 1 日に、地域開発戦略推進室という組織を立ち上げることにしました。遠野市総合計画

基本構想に基づき、地域開発をめぐる大きな状況変化があります。12月5日には、遠野インターが供用開始されます。国道340号立丸峠のトンネル整備は急ピッチで進んでいます。あと3年です。東北横断自動車道釜石秋田線の全通、国道340号立丸峠トンネルの整備が終わってから何をするのか考えるのでは遅いのです。雇用の場としての工業団地を取得し造成するための都市計画法、農振法、農地転用などクリアしなければならない法律があります。これを、きちんと手順を踏んでクリアしなければなりません。『地域開発戦略推進室』は、そのような新たな工業団地の整備、遠野風の丘の機能強化に取り組みます。

東北横断自動車道釜石秋田線の全通後、釜石花巻間の80キロのうちサービスエリアの機能が必要となります。そこで、中間点の遠野において、遠野風の丘をサービスエリアに位置付けることが正式決定しました。駐車場の増設や機能拡充などの大きなプロジェクトがあります。9月補正予算として、市の単独経費として7,500万円を駐車場拡張として計上しました。当面ただちに取り組まなければならないことについて、専従で取り組むことと、基本計画の中で確実に戦略として進めていく役割を担っています。きちんとしたランドデザインを策定しながら雇用、定住、交流を整備していくという取り組みです。

今日の午前中、県の市長会の副会長として平成28年度の県の予算について盛岡市の谷藤会長と二戸の藤原市長と3人で県に要望に行ってきました。市町村がそれぞれの役目を全うし、活力を見出すことで県全体が底上げされるということで、県に要望してきました。その後、県の関係部課を回ってお願いをしてきました。

また、本日は13時から、馬の里で42回目になる乗用馬のセリが行われています。一頭250万円から270万円の値段がついていました。愛情を込めて育てた馬が、全国に行くわけで、九州、静岡、北海道などいろいろなところから買いに来ていました。遠野の馬事振興ということで、そのセリを支えているのが遠野緑峰高校の生徒さんたちでした。馬事研究会というクラブがあり、セリを支援していました。購買者の方に、今、県立高校がいろいろ見直されていますが、小さくてもキラッとひかる学校があっても良いということで遠野緑峰高校の生徒さん達を紹介しました。

そのようなことを報告し、挨拶と報告にかえさせていただきます。ありがとうございました。

3 会長あいさつ

○菊池文正 経営企画部長

続きまして、臼井会長よりご挨拶をお願いいたします。

○臼井悦男 会長

今日は、上郷町の一人暮らし高齢者の交流会がありました。元気な方が集まっていますが、この人たちが元気になれる総合計画が必要だという思いで帰ってきました。今日が千秋楽となる予定の審議会です。委員の皆さんには幅広いご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

4 出席者報告及び日程説明

○菊池文正 経営企画部長

出席者報告及び資料についてです。

本日、委員の皆さま方の出席状況は、25名中代理出席を含めて21名の委員の皆さんに出席いただいています。なお、欠席の委員については千葉純子委員、菊池一晃委員、海老糸子委員、佐々木栄洋委員となっています。

次に、本日の配付資料について、ご確認をお願いします。

- 1 次第、名簿
- 2 第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応（資料No.1）
- 3 第2次遠野市相互計画前期基本計画（案）（資料No.2）
- 4 第2次遠野市相互計画前期基本計画掲載主要事業（案）（資料No.3）

本日の予定です。これまでに寄せられた意見・提言について事務局から説明します。その後審議となります。本日は答申まで予定していますので、よろしくお願いします。なお、終了時刻は午後3時30分頃を予定しております。

5 審議

○臼井悦男 会長

これまでに、さまざまな意見が寄せられました。その意見を基に答申案をまとめることについては一任されていきましたので、本日の資料の通り整理しました。内容について事務局から説明していただきます。

◇鈴木英呂 企画総括課長

*資料 No. 1、2、3について説明(約15分)

○臼井悦男 会長

これらについて意見はありませんか。

○河野好宣 委員

資料 No. 1 の63番について、ふるさと教育の推進については情報の発信だけでなく、受信も必要だと思います。受発信するという表現にすべきだと思います。

◆鈴木英呂 企画総括課長

そのとおり、修正します。

○臼井悦男 会長

他にはありませんか。答申後には、皆さんから一言ずつお願いしたいと思っています。ここで、ひとまず終了してよろしいですか。(一同はい)

答申案についてはどうですか。意見ないですか。(一同なし)

それでは、この案の通り答申することで決定してよろしいですか。(一同はい)

6 答申

○菊池文正 経営企画部長

ご審議ありがとうございました。これより、第2次遠野市総合計画前期基本計画の答申を行わせていただきます。

*臼井会長から本田市長へ答申

○菊池文正 経営企画部長

これまでの審議、大変ありがとうございました。ここで、委員の方から一言ずつ、感想や市に期待することなどの意見をいただきたいと思います。それでは、松田委員から順にお願いし、最後に臼井会長、よろしくお願いします。

○松田克之 委員

前期基本計画ができたということで、これから市民の皆さんに対して5年プラスアルファでそれ以上のことをやっていただければと思います。

○千葉和 委員

市長も言われましたが、総合計画は作って終わりではなくて、これからがスタートだと思う。前回の策定にも携わりましたが、まちづくり指標は数値化しやすいものを選んでいますが、これが全部達成されても必ずしも100%できているとはならないと感じています。市長が言われた幸福度指数ですか、プロジェクトXというのを始めることは、素晴らしいことだと

思います。この総合計画は市民の方に冊子が配られると思いますが、市民の方に関心を持っていただくことがとても大事だと思います。難しいとは思いますが、計画をどのように感じているか、達成されているかを聞くアンケートをして調べることも必要だと思います。

○菊地セツ子 委員

皆さんの意見を聞いて勉強にもなりました。市に要求するばかりでなくて、市民としての責任も果たしていきたいと思っています。健康について自分のことは自分でということで、現場で十分栄養士の仕事ができるように、夢ですが、増やしていただけたらと思います。

○河野好宣 委員

10年後を見据えた基本構想に続いての基本計画づくり、これに古希を目前にして携われたこと、感無量です。今後これをもとに実施計画などに進んでいくと思いますが、楽しみにしていきたい。

○松田希実 委員

このようにたくさんの細部にわたる計画に携わらせていただき、普段かかわりのない分野の意見も聞けてとても勉強になりました。特に、分科会を設けて話し合いをしたことで、今まで大きい場では発言ができなかった部分が、言いやすくなったのでよかったですと感じました。

これからも、よりよい遠野市であるように市民のひとりとして関心を持ち続けていきたいと思っています。

○菊池一勇 委員

農業の振興は、本当に大事です。まちづくり指標は、このとおり進んでいただきたいと思いますが、国の施策が強く係る分野ですので、農業の大転換期を迎えていますので、このとおり進めばよいのですが、一年ごとの見直しなど、変化する農政に対応して農業振興を図っていただきたいと思います。また、各農業団体との連携を密にしながら農業振興をお願いします。

○濱田平八郎 委員（代理出席：菊池修市）

農業、林業の基盤整備が、ますます重要になってくると考えています。揺れ動く情勢の中で着実に歩んでいきたいと思っていますので、みなさんとともに、この計画に沿って確実に実行していけるように頑張りたいと思います。

○荒田良治 委員（代理出席：菊池完）

94 ページの観光メニューの充実については、我々観光協会も頑張っていきたいと思っていますので、一緒に協力していただければと思います。

○佐々木弘志 委員

この計画は、年配者から若者まで読まれると思いますので、専門用語やカタカナ用語には留意して、理解が得られるような表現をお願いします。

○小松正真 委員

今回、さまざまな意見を言わせていただきました。遠野市をよくするために、私たちも協力していきたいと思っています。

○菊池香南子 委員

市民として、市の考え方を受け止めながら協働で活動を推進していくことが大事だとされていながら、なかなか遠野市が考えていることが分からなかったというのが実質でした。今回、審議会に参加させていただいて、どのように考えて、これから10年をどのようにしていくのかを決めることに携われて貴重な経験となりました。市民の方が、分かりやすいかたちで知ることができれば地域での協力も高まると思うし、地域のコミュニティーも高まると思います。

この間、横断歩道を渡ろうとして立っていたら、男子高校生3人がさわやかに「こんにちは」

と言いながら通り過ぎて行きました。3人とも、にこやかに声をかけてくれ、とても感動しました。小学校からあいさつは大事だと言われながら、なかなか大人になるまで身に付かないのかと思っていたらそんなことはない、やはり遠野だなと思ったところです。遠野スタイル創造・発展の中で、このような子どもたちがいっぱい遠野の宝として育っていくように頑張っていきたいと思います。

○工藤和信 委員

市長が言っていた合計特殊出生率 1.94 に向けて、いろいろな施策を実施していかなければ達成できないと思いますし、また、そこに向けて頑張っていたいただければと思います。子どもたちが遠野に生まれ、育ってよかったと思うような魅力ある遠野にしていきたいと思います。子どもたちが元気いっぱいの遠野であれば、良いと思います。

○佐々木國允 委員

これからの先、10年間の計画ができたが、これが遠野市の10年間のDNAだと思う。これをどのように市民と協働していくか、これまで色々な方たちで取り組んでいる市のやりかた、進化まちづくりなどコミュニティーを作っていく取組もしているし、色々な取組の中で検証しながら本当の地域づくりを進めていってほしいと思います。市長の話にもありましたが、遠野には各種人材がいるわけですので、大工が家を建てるように個性のある木を生かしながら立派なものに作りあげていただきたいと思う。

市民が、このような施策をどのように思っているのかアンケートを取るのもひとつの手段だと思います。選挙年齢が18歳に引き下げられたことありますが、中高生が遠野市をどのように思っているのか、簡単なアンケートでよいと考えています。簡単に、「好き」、「嫌い」、「分からない」の3区分でよいと思います。なぜそうなのかということの背景を我々や市で分析して、この計画を修正していくことが大事だと思います。中高生の思い、考え、気持ちはかていを反映しているものと思います。

これまで、遠野市の取組により、道路整備が進んでいるとか、トンネルができるとか、道の駅遠野風の丘がインターになる、そのほかに国体やオリンピックもあります。遠野が震災時における活動は世界的に有名で、オリンピックの前後には遠野市を訪れる人が多いと思います。近隣の釜石市、大槌町、花巻市との交流を深めながら、特に橋野の溶鉱炉に関しては、遠野の佐比内にも鉱山と溶鉱炉がありますので観光化に向けた取組も考えてみてはどうかと思います。

○菅沼隆子 委員

今回、自分が係っていないところも分かり、自分の微力さ、勉強不足を痛感したところです。今後は市の担当課と協力して、教育文化振興財団の活動に生かしていきます。

個人としても今回勉強させていただいたことを、自治会活動を通じて遠野市のためにお役に立てればと思っています。

○内館充幸 委員

各分科会における意見等に対し、文言等を分かりやすく説明されていました。これが地域づくりにどのように反映させていくか、市の方と協力して頑張っていきたいと思います。

○木村稔 委員

資料 No. 2 の 85 ページに遠野市内の高校生の就職率があります。遠野の高校を卒業して専門学校や大学に進んだ方の数値になると県内県外が逆になってほとんどの方が戻ってこないという状況だと思います。市長が言われていましたが、高速道路もでき、立丸峠のトンネルができるということで花巻市、北上市、奥州市あたりにはものづくり企業が集積していますので、釜石市を含めて通いやすくなると思います。遠野に住んで市外に勤めるというのもひとつの定住のあり方だと思いますので、県も既存企業の支援もですし、遠野市では工業団地の整備にも取り組んでいくとのことですので、企業誘致にも一緒になって進めていきたいと思います。少しでも遠野に帰ってくる方が、短大や大学を出た方が戻ってくるように、県と市と地区の方と

が一緒になって進めていくことが重要だと思います。

資料 No. 2 の 98 ページの定住の関係について、この地域の総合戦略の会議に委員として参加していますが、雇用、移住定住、子育ては、どこの市町村も入っています。移住定住に関しては、遠野市が、一番ネームバリューがあり、うらやましいと他の市町村から言われています。実績も伸びているし全国から来ている人が多い。これまでの取組をさらに進めていただいて、ワンストップで移住希望の方の相談に対応できるように、最終的には地区の方の温かい心が必要だと思います。行政だけではなく、自治会、町内会の受入などもお願いして、県内の市町村をリードしていただきたいと思います。

○鳥屋部恵児 委員

市総合計画とは何かということから入りましたが、これから遠野市はこのようなことをしてよくしていこうと、最終的に遠野はいいよねとまわりから思われるようになっていくためのものだと思います。関わった以上、私も微力ながらよくなるように頑張っていきたいと思います。

○菊池広樹 委員

市総合計画策定という貴重な機会に参加させていただいたことに感謝します。遠野スタイルの創造・発展、大綱が1から5までありますが、農業がすべての土台になると思いますし、将来なりたい職業が農業だと、そのような遠野になってほしいと思います。勉強不足ながらも、私も係っていききたいと思います。

○高宏美鈴 委員

この機会があり、今後遠野テレビでみなさんを見るのが楽しみになりました。11月4日には「ちょい飲み遠野ではしご酒」を開催しますので、活性化のため、ぜひ参加してほしいと思います。

○菊池陵太 委員

10年前に遠野市ができたときは、まだ高校生でした。10年後に遠野市の市総合計画に携われることになり、予想もできないことでした。総合計画は10年後をつくるための計画ですが、予想できないこともたくさんあり、これから行政と市民、われわれ若者が、目の前のことを一生懸命やることで良くなると思っています。次の10年に向けて、我々も頑張っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○臼井悦男 会長

市では、新しい地域コミュニティのあり方を検討していて、地域福祉の関わりもあり、一つ一つの活動が元気になることで遠野市が元気になります。今日のような大きな目標があり、それに近づく努力を市民や各団体、自治会がそこに向かっていければ、また、別な意味でも元気になると思います。一人ひとりの市民の皆さん、各団体の課題を把握して、課題解決にあたるのが我々の仕事にもなりますので、これまでに出た意見をかみしめながら、私たちの活動にも生かしていきたいと思います。

○菊池文正 経営企画部長

ありがとうございました。ここで、遠野市長からごあいさつを申し上げます。

○本田敏秋 遠野市長

先ほどは、臼井会長から答申をいただきました。臼井会長をはじめ各委員の皆さんに大変なエネルギーをこの計画策定に注いでいただきましたことに、心から感謝申し上げます。これを着実に推進していきたいと思います。

各委員それぞれからコメントをいただきましたが、非常に重いものとして受け止めました。

これから12月議会で議論が交わされます。基本計画を実施計画に落とし込み、また平成28年度予算編成を進めていく作業が待っています。良い意味での緊張感を持ち、この答申の重さを踏まえながら作業を進めていきたいと思います。市民協働、官民一体、これが遠野スタイル

としてのまちづくりであります。

先般、神奈川県南足柄市の加藤市長が来られて、本市と防災協定を結びました。これは被災を受けたからお互いということではなく、それぞれの地域資源を生かし、足らざるところを補い、特性を生かしあうまちづくりを行っていかうということです。小田原市を控えて、東海地震、また首都直下型地震で相模湾に大津波が発生したら、小田原市が壊滅するというシミュレーションがあります。その背後に南足柄市があるということで、遠野市を手本に南足柄市でもまちづくりをしていきたいということでした。

3月には東京都調布市が、遠野市の市民協働の仕組みを調布市のまちづくりに生かしたいということで申し込みがありました。現在、防災協定を締結する準備を進めています。

遠野スタイルという市民協働のまちづくりが、全国の自治体に確実に輪が広がってきています。今週の日曜日には、遠野市消防団のラッパ隊が、愛知県大府市の産業まつりに行ってドリル演奏を披露するという企画も実現しました。まちづくり、地域づくりといった水平連携が、着実に仲間の市町村と絆が結ばれています。市民の力、関係団体の力をいただきながら、一方においては、仲間としての水平連携をさらに強めてそれを底力にしながら、地域の活性化を見出していきたいと思っていますので、改めてそのことを報告しながら、今日、審議会から答申をいただいたことへの御礼と感謝の言葉として、また、これを基本計画に位置付けて着実に進めることをお約束して御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

7 その他

○菊池文正 経営企画部長

本日、答申をいただきました係る計画書は、今後庁内の策定委員会で検討し、最終決定して11月24日開催の市議会議員定期協議会に説明して、12月定例会に提案してまいります。

皆さまには、たいへんお忙しいところ、ご審議いただいたことを改めて感謝申し上げます。計画策定に係る審議会は今回をもって終了となります。

8 閉会

○菊池文正 経営企画部長

以上をもちまして、平成27年度第9回遠野市総合計画審議会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。